

卒業文集・防災学習記録集

3. 11大震災を忘れない、 そして先人の知恵を学ぶ

Remember the 3.11 Great East Japan Earthquake and
Study the Suggestion of Ancient Peoples



2014年（平成26年）3月11日

明成高校総合コース

3年7・8組

（3月3日卒業）

明成高校の皆さんへ

学校や皆さんの自宅も被害を受けた由、心からお見舞い申し上げます。

今回の震災では、多くの若者がボランティアではせ参じました。それはそれで、現地のお役には立ったでしょうが、一過性です。

皆さんは、「しっかりと現実を見据えて、自分たちに何ができるか考えること」を柱として位置づけ、3.11を忘れることなく、先人の知恵を受け継ぎ、後世へ伝えることに取り組まれました。

人間はイヤなことは忘れてこそ、今日を楽しく生きることができるので、それは人間の性です。しかし、災害列島に住むわれわれは、安全神話の上にあぐらをかいているわけにはいきません。低頻度であっても巨大災害のことを伝えていく義務があります。

皆さん方の研究が遠い将来の人たちの命を救うことに繋がるかも知れません。

私が「津波詳細地図」や「桜島大噴火記念碑」を出版したのも皆さんと同じ思いだったからです。

皆さんの今回の経験が人生にとって宝となるでしょう。地惑連合での受賞おめでとうございます。

蛇足ですが、世界で最も人口密度が高いところは温帯～亜熱帯の若い変動帯です。地震活動や火山噴火、地殻変動が激しく、それ故、山崩れや洪水も頻発します。

でもこうした地質現象によって、肥沃な土壌が供給され続け、農業が成り立つのです。それが海まで流れていくと栄養塩が供給されますから、世界有数の漁場も形成されます。

湿潤温暖な気候は、農業に欠かせない水をもたらしますが、一方で疾病の多いところでもあります。恵みと災いは表裏一体なのです。

三陸は決して災害の多いイヤなところではありません。ある漁師さんが「太平洋銀行」と言っていました。おらが海には無限の宝が貯金してあるというのです。

ドッカと腰を据えて、山紫水明の地を愛でながら、一方で、災いの部分を極力減らす努力をすべきなのでしょう。

鹿児島大学名誉教授 岩松 暉